

## 令和5年度第1回防府市図書館協議会

日時：令和5年7月19日(水) 午前10時～午前11時30分

場所：ルルサス防府 ルルサス文化センター 交流室1

### ■出席者

(委員) 藤村会長、安光副会長、岡田委員、岡委員、杉山委員、新田委員、山崎委員、吉武委員、津田委員、有吉委員 (計10名)

(事務局) 江山教育長、高橋教育部長、大野図書館長、御手洗図書館管理室長

■傍聴者 なし

### ■議事録

#### ○事務局

定刻になりましたので、ただ今から「令和5年度第1回防府市図書館協議会」を開催いたします。

それでは、防府市図書館協議会規則第三条第1項に、「会長は会議の議長となる」と定めておりますので、これからの会につきましては、藤村会長に議事進行をお願いいたします。

#### ○議長

それでは、スムーズに運びますように、御協力よろしくをお願いいたします。

今回の会議につきましても、前回と同様、会議および会議記録につきましては、「公開」ということでよろしいでしょうか。

(異議なし)

では、異議なしということで、公開で進めてまいりますので、よろしくお願いいたします。それではこれより、議事に入ります。議題1「令和4年度事業実施状況の評価」について、事務局から御説明をお願いいたします。

#### ○事務局

「令和4年度事業実施状況の評価について」でございます。図書館の事業実施状況に対する自己評価を図書館でいたしました。それを委員の皆様にお送りして、コメントをいただきました。いただいたコメントを資料1として、まとめております。同じ主旨のコメントは、ある程度、まとめさせていただきました。

本日の会議の目的は、資料2の大きな各項目の最後の所に、図書館協議会の意見ということで、今現在は(案)としている部分について、意見等をまとめていただくことでございます。

事務局で、ある程度意見を要約いたしまして、各項目の(1)からの細分類の順

に並べたものを図書館協議会の意見(案)にしております。

市のホームページで公開しますので、内容や表現について、御意見を伺いたいと存じます。

まず、1から7の大項目ごとに図書館長から業務の実施状況と図書館について御報告をし、続いて事務局側から、協議会としての意見(案)について御説明いたします。それについて、委員の皆様のお意見をいただければと考えております。

まずは、館長から、説明をいたします。

#### ○館長

皆様には、あらかじめ資料に目を通していただいているという前提で、また時間も限られておりますので、ここでは令和4年度からの新たな取り組みを中心に御説明させていただきますとともに、皆様からの御質問や御要望についてもお答えしてまいりたいと思います。なお、各項目名については、時間の都合上、いちいち読み上げることはせず、数字番号で説明させていただきます。

それでは、資料2について御説明します。

#### 1 誰もが等しく学べる、豊かな資料と機能を持つ図書館

まず、1 ページ目の1-(1)の①ですが、ご存じのように10月1日に電子図書館を開設いたしました。これは図書館から遠いところに住んでいる方、また障害者や高齢者など、図書館に来るのが難しい方でも、自宅のパソコンやスマートフォンで電子書籍を読んでもらうようにするためです。導入初年度ということで電子書籍を1,000冊購入しましたが、令和5年度は500冊の購入予定でございます。選書に当たっては、紙の本と同様、「資料収集要綱」に則り、特定の分野に偏ることなく幅広く集めてまいります。ちなみに、令和4年度末における登録者数は、防府市在住者と通勤通学者のみということで42,510人、貸出冊数は4,192冊でした。こちらは、年報で御確認ください。

なお、昨年10月の図書館協議会で御提案もあったことから、教育委員会と市内各小中学校の御協力を得て12月に新規の登録者を募りましたところ、新たに約300人の児童・生徒が登録してくれました。引き続き周知と利用拡大に努めてまいりたいと思います。

続いて2 ページ目、1-(2)の②ですが、このたびの電子図書館のスタートに合わせて、ホームページをリニューアルしました。なお、リニューアルにあたっては、「利用者が見やすい、探しやすい」をコンセプトに、デザインを一新しております。なお、以前のものに慣れていたため、リニューアル当初は使い勝手が違うとの指摘もありましたが、そうした御意見もふまえて、今後さらに部分的な変更もしてまいりたいと思います。

同じく2ページ目、1-(2)の④の「安全対策」ですが、これは今年度のことになりまして、5月8日に新型コロナウイルス感染症が2類から5類に変更されたことに伴い、おはなしの部屋と準備室の利用を可とするとともに、研修室等の定員を元に戻しました。

なお、利用者と対面して会話をするカウンターにおいては、引き続きビニールシートを設置して感染予防対策をしており、消毒器と体表検知カメラも利用できるようにしています。

#### ○事務局

資料2の4ページの大項目1、図書館協議会の意見の案についてご覧ください。

既に資料を見ていただいている前提でお話をさせていただき、時間も限られておりますので、意見案のすべてを読み上げることはせず、進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いします。

まず、大項目1の図書館サービスについては、概ね評価をいただいております。一部、課題や要望が出ております。

課題としては、1-(1)館外貸出増加(人口一人あたり5冊以上)に向けた対策についてというところや1-(2)コロナの収束に伴い、図書館利用者は増加しているが、移動図書館車利用減少への対応について、挙げられています。

要望としては、1-(2)ホームページの行事予定が分かりにくい、またボランティア団体行事についての御意見や、紙芝居書架の利用の更なる工夫について、また項目1に限らず、全般的な意見として、図書館サービスの周知について、更なる充実が求められていると感じております。

さらに、1-(4)では、司書による専門的な立場からの本のアドバイスが求められていることと、レファレンスサービスの周知が要望されています。

以上、図書館協議会の意見(案)に対する、皆様の御意見を伺いたいと思います。

#### ○議長

はい、今の御説明に対する御意見、御質問等ございましたらお願いします。

1-(1)の課題の所ですが、蔵書数の増加に伴う閉架書庫内の空きスペースの確保については、新たにいろいろと対策をされているとお聞きしていますが、いかがですか。

#### ○事務局

閉架書庫については、今まで持っていた資料の中の、例えば官報とか、直接的に利用者に貸出をする資料ではなくて、参考的に持っている資料がありましたので、その辺りの資料の整理をしまして、現在、大分書庫が開いてきた状況になっています。

#### ○議長

どこの図書館も、閉架書庫の空きスペースがなかなか確保しにくくて困っておられる状況のようですが、工夫をして、よろしくをお願いします。

それと振興基本計画の委員評価の中で、資料1の裏側に委員さんからの御質問がございますが、簡単に御説明をお願いします。

○館長

今年度の電子書籍と紙媒体の購入方針についてですが、御承知のように予算が5年計画で決まっております、その内訳をどうするかということでございますが、先ほど、購入予定冊数を申し上げましたけれども、電子書籍を500冊、残りの金額で紙媒体の本を購入予定でございます。購入の方針につきましては、今までの基本方針に則りまして、偏りのないような購入の仕方を、電子書籍につきましては、若干、児童書籍を多めにと考えております。今は、冊数が少なく、子どもが利用しにくいということがございますので、その辺は少し考慮して子ども用の資料が多くなると思いますが、まだ、具体的な冊数は、お示しできませんけれども、予算については、昨年同様に枠内での割り振りになって参ります。

それから、電子図書館の実人数や延べ人数、どのくらいの年齢層が利用しているかの質問についてですが、先ほど登録者数貸出冊数については、御説明したのですが、実人数というのが、電子図書館システムは、図書館システム(LICS)とは別のシステムになることから、図書館システムほど細かい分析ができないということから、先ほど申し上げた数字で了解をいただけたらと思います。

3番目のテーマ別ブックリストについてですが、大変失礼しました。昨年度、テーマ別ブックリストについては、作成できていませんでした。訂正とお詫びを申し上げます。申し訳ございません。

○議長

質問をされた方、よろしいですかね。

○委員

1つ目と2つ目の質問は、私だったのではないかと思います、1つ目については、5か年計画だということ、前から言っているように紙媒体の図書を侵食していくのだろうと考えています。それが、将来的に令和5年度だけではなくて、どこの図書館もそうだと思うのですが、図書購入の全体的な割合として、気になるということであげました。

2つ目については、分析できないとおっしゃっていたのですが、これは知るすべというものが無いと、予算要求したりする時に問題にならないかと思うのですが、これは不可能なのでしょうか。つまり、利用しているのが高齢者なのか若い方なのかが分からないといけないのではと思います。

○館長

利用者を全部拾い上げれば可能だと思いますが、先ほど申しあげたとおり、図書館システムであれば簡単に出てくるのですが、電子図書館の方は、全部一度打ち出して利用者番号と付き合わせていかないといけない作業ですので、膨大な作業になりますので、実際にはやっておりません。

ですから、児童書が何冊、一般書が何冊などの冊数は、すぐに出てくるのですが、申し訳ありません。今後、調べる必要があれば、検討させていただきたいと思います。

#### ○委員

必要があるかどうかは、図書館が考えてください。

確か、萩市図書館は全国で3番目に電子図書館を始めたと思うのですが、その時にビジネスパーソンがよく使うと聞きました。最近は、とはいっても今ではないですが、伸び悩んでいるという話でした。学生たちが卒論で調べた際には、どういう層の方たちが使っているという統計が確かあった気がしますので、これが分からないということが、私には分からないところです。データ処理が、そんなに難しいというところが、少し気になりました。

無理やり突き合わせる必要はないのですが、ちょっと出ないのかというところが、今の時代にしては、手作業が多いようですので、気になります。

#### ○議長

電子図書館サービスを始められたとこいうことで、1-(3)の自己評価がAということになっておりますね。コロナの関係もありまして、全国的にも電子図書館サービス導入館が増えています。

それでは、2の御説明をお願いします。

#### ○館長

##### **2 地域の人々と手を携えて、豊かな交流の場を創る図書館**

5 ページ目、2-(1)の①ですが、第11回防府市子ども読書フェスティバルを6月5日に開催しました。午前中は、一昨年に亡くなった那須正幹さんを偲んで、親交の深かった4人による座談会、午後からは那須ファンによる一押し本のブックトークを開催したほか、遺品やメッセージカード、ポップの展示も行いました。奥様をはじめとした御遺族の方も御参加くださり、大変喜んでお帰りになりました。

それから同じく2-(1)の①ですが、ボランティアの高齢化への対応として、また、新たなボランティアの発掘につながればということから、今年度の「防府図書館まつり」には、防府高校を除く市内の高校4校のボランティアクラブが参加してくれることになっております。彼らが、その経験に触発されて、将来、ボランティア団体の中核を担ってくれるようになればと願っております。

#### ○事務局

資料2のp.5 図書館協議会の意見(案)をご覧ください。

大項目2については、昨年と同様に新型コロナ対応をしながら、「防府市子

も読書フェスティバル」と「防府図書館まつり」を開催できたこと、ボランティアの方々と協働しながら、豊かな交流の場を創るコミュニティセンターとしての図書館の在り方が定着してきているという評価をいただいております。

そして、資料1の委員意見の中に今年度のイベントに関するものがございました。一部、令和4年にも関わることは、資料2に入れさせていただきますが、資料2に掲載していないものがありますことを申し添えておきます。

2-(2)につきましては、新たなボランティアとして、若い人への参加を拡げるため、先ほど館長からも紹介がありましたが、今年度からは「図書館まつり」の際に、高校生に声をかけてみようという話ですが、子どもを対象にしたボランティアを募集することや、ボランティア養成講座の開設や講座の内容についても、いろいろと御意見や御提案をいただいておりますので、(案)に掲載しております。

皆様の御意見を伺いたいと思います。

○議長

今の御説明に対する御意見、御質問等ありましたら。

高校生ボランティアへの呼びかけが課題になっていたわけですが、今年の図書館まつりから参加していただけるということでしょうか。

○館長

そうですね。市内の私立、公立を問わずボランティア活動をするクラブがございまして、防府商工高校、誠英高校、高川学園高校に、インターアクトクラブ、防府西高校にはボランティアクラブがございまして、そちらの顧問の先生に私どもが訪問させていただきまして、お話をさせていただいたところ、快く御了承いただき、クラブ員にぜひ参加させましょうということでお話をいただいております。

ただ、古本リサイクル市だけではなくて、いろいろな団体がさまざまな催し物をされますので、そこにも積極的に参加していただこうと進めているところでございます。

○議長

はい。図書館まつりを契機に、図書館サービスにも関わっていただけるとよいですね。

○委員

質問ではないのですが、県や市の協議会等にも参加しておりますが、高校生の参加については、県でも他市でもなかなか前向きではなかったりするので、防府市では高校生の参加を考慮して、図書館まつりの日にちさえ変更をすることで、素晴らしい図書館、教育行政だと、教育長さんにお伝えしたいと思いました。ありがとうございます。

○議長

では、大項目3に参りましょうか。

先ほど大項目2の所で、那須さんのイベントについては触れられましたが、こちらにも掲載されていますね。

○館長

3 生涯学習の拠点として、集会文化活動に力を入れ、地域の力を高める図書館

6 ページ目、3-(1)の①イベント・懇談会については、先ほどの「子ども読書フェスティバル」での座談会のほかに、6月8日、アスピラート3階音楽ホールにおいて、歴史小説作家の今村翔吾氏による講演会「歴史から物語ができるまで」を開催しました。これは今村氏が直木賞受賞のお礼を込めて全国を巡回する「今村翔吾のまつり旅」という企画に応募し、当選したことによるものです。当日は、コロナ禍にありながらも359人もの参加があつて、大いに盛り上がりました。市内の高校、防府商工高校と高川学園から、高校生の参加もありまして、今村氏によれば、それまでの回つた中では最多の参加者数であると驚かされていました。

なお、大人向けのイベントとして令和2年度にスタートした「月いちキネマ」や、令和3年度にスタートした「大人のくらし塾」はいずれも好評で、参加者も常に定員に達しており、ときにはおことわりをしなければならぬ場面もありましたが、アフターコロナにむけて、今後は定員の見直しも検討してまいります。

さらに、御指摘をいただいたイベントの案内ですが、図書館の入口にA4サイズの告知プリントを掲示しておりますが、図書館まつり実行委員会から御寄贈していただいたデジタルサイネージやイーゼルに、おはなし会のポスターを掲示するほか、サークル団体のおはなし会などについては館内放送での御案内もしております。今後もより効果的な方法を工夫してまいりたいと思います。

○事務局

資料2のp.7 図書館協議会の意見（案）をご覧ください。

大項目3、3-(1)については、生涯学習活動の拠点として、さまざまなイベントを開催していることや展示コーナーの資料展示の多さについて評価されており、その後の継続を望まれています。

そして、要望の内容としては、「月いちキネマ」の人数制限の緩和について、研修室の行事開催時の告知の方法などについて御意見をいただいております。

周知方法についての回答は、ただいま館長の方から説明がありましたが、「月いちキネマ」の人数制限緩和については、検討するということです。

以上、皆様の御意見を伺いたいと思います。よろしく申し上げます。

○議長

それでは、今の御説明に対する御意見、御質問等ありましたらお願いします。

○委員

7 ページの 3-(1) 研修室で行事があるときには、A4 プリントの告知だけではなく、館内にいる人にも分かりやすくしてほしいという意見に対して、今、館長の説明でも、アナウンスをすとか言われました。スタンドを使っておられると思いますが、A4 でするので、今日は何をしているのかと覗いてみるのですが小さいので、大きな表示をしてほしいと主催者側は思っているのですが、もう少し大きなスタンドを用意していただければなと思いました。

○議長

他にどうですかね。

先ほども触れておられましたが、子ども読書フェスティバルの那須正幹さんの追悼行事は大変盛会で、特に午前中の那須さんを偲んでという座談会は、故人と親交のあった児童文学者関係の人たちが語りつくしていただいて、那須さんが本当にすごい作家であるということが再認識されたのではないかと思います。

それから、今村翔吾さんには色紙もいただいておりますよね。この 3-(1) についても、自己評価が A になっております。先ほどの電子図書館とこの項目が A で、他はみんな B ということですね。

それでは、大項目の 4 について、お願いします。

○館長

**4 地域の歴史や文化を大切にするとともに、国際理解を深めていく図書館**

続いて 7 ページ目、4-(2) の①ですが、上山満之進翁と三哲文庫を顕彰するというので、誕生月に合わせて、ブラウジングコーナーにおいて「三哲文庫、そして防府図書館」と題してのパネル展示を行いました。

なお、今年度は上山翁の没後 85 年ということで、命日の 7 月 30 日にあわせて、現在、ブラウジングコーナーにおいて「上山満之進没後 85 年」と題してのパネル展示を行っております。

また、郷土の歴史や文化(文化人)、あるいは世界的な行事等について展示をという御要望については、今後の月例、あるいはミニ展示というかたちで御紹介できればと考えています。

○事務局

資料 2 の p. 8 図書館協議会の意見(案)をご覧ください。

大項目 4 については、地域の特性を反映した資料収集および防府史料の発行と公開については、評価をいただいているところで、その情報発信の継続が望まれています。

それから、上山満之進賞の創設が評価されていますが、この意見については、



大項目6の子どもの読書活動の所でも評価をしていただいておりますので、紹介をしておきます。

なお、上山満之進と三哲文庫の関連性の更なるアピールが望まれていますので、また図書館の方で動いていただきたいと思えます。

その他にも、地域の行事や文化・歴史などの紹介や国際理解のための新しい取り組み、および外国の方向けのサービスなどが望まれています。

皆様の御意見を伺いたいと思えます。

○議長

ただ今の御説明に対する御意見、御質問等ありましたらお願いします。

○委員

今、上山さんのコーナーがありますが、先日個人的に那須さんの書齋を見せていただく機会があつて、奥様が、那須さんの書齋をそのままどこかへ寄付したいとおっしゃっていました。書齋には多くの物があり、このままだといつか捨てることになると言われていたし、すべての物は無理でも、一部ならイベント等に使えるし、捨てるには少しもったいないなとも思えますので、図書館に残すことができれば、少しでももらって来ようと思えますが、いかがでしょうか。

○館長

昨年イベントの際に、那須さんの御遺族の方に遺品等については、一部展示をさせていただきましたが、その後はすべてお返しをしております。

もし、御寄贈という御希望があれば、図書館でお預かりするのは、環境的に難しいところがございますけれども、市の方との御相談ということになるかと思えます。そういう御要望があるということは、承っておきます。

○議長

小さくても記念館ができると、一番いいかと思えますが、財政的な事もあるかと思えます。

上山満之進賞のスタートは、好評のようですね。昨年の図書館を使った調べる学習コンクールで、上山賞を受賞した作品のテーマは、阿弥陀寺でしたが、上山翁自体を取り上げた作品が出るかもしれないですね。

他に何かございましたら。

○委員

4-(3)について書いたのですが、国際理解について、図書館のサービスが偏っていると、毎年感じています。防府市に来ている方は、韓国よりも他の国の方が多いのが実情です。その人たちと触れ合う人はとても多くいて、学校でも子どもたちが直接関わっていると思うのですが、その国に対しての理解という面で、図書館から発信が全く無いように思われるので、防府に来られている方の

母国がどういうもので、どういう文化があるということを少しでも発信していく機会があって、変な偏見も減っていけばいいなと思っておりますので、期待しております。

○委員

関連して、今、感じていることなのですが、国際交流というと動的なものが多くて、例えばスポーツイベントなどは華やかに交流があるのに、文化的なものになると、書道であれば、書道協会などが中心になっていますが、どこか一部が中心になってやるものはありますが、なかなか全体での交流がないのは、仕方ないのでしょうか。もっと動きがあるような文化交流で、図書館が核になるのは、難しいのでしょうか。図書館といえば、静かな展示だけではないと思いますが、少し気になりましたので、意見として申し上げました。

○議長

図書館は、やはり資料を基にして展開されるということで、外国紹介にしても資料展示でという形になろうかと思いますが、どうですかね。

○館長

積極的な交流は、確かにおっしゃる通り、ほとんど出来ていない状況です。春川との姉妹都市提携なり、資料交換ぐらいしか、具体的な事はやっておりません。

その他の国々、ベトナムや東南アジアの国々からもたくさんの方が防府にいらっしゃると承知しておりますし、その方たちが使いやすい図書館を目指して、更にサービスをしていかななくてはということです。今現在、洋書はハングルと英語の本がほとんどですが、その他の言語の資料も少し充実させていくことかなと考えております。あまりに回答になっておりませんが。

○議長

委員の御質問、御提案について、教育委員会として何かありますでしょうか。

○教育長

先ほどの国際交流については、各学校図書館で学校司書が、いろいろな月別のコーナーを作ってくれていますので、そういう場所で展示等を作ることが可能でございます。

動的な交流であれば、今、第3日曜日の家庭の日に山口短期大学の学生が子どもたちの遊び相手として積極的に活動されているので、動的な交流として、そこを使うようにするのも、いいかもしれないと思うところです。

○議長

学校図書館で、かなりいろいろと展示等されていますね。関係のある委員さん、いかがですか。

○委員

すみません。私にも、コメントができません。

○教育長

いろいろな時期に合わせて、学校図書館では資料展示等をしておりますので、防府市には、いろいろな国の方が生活しておられるので、その方たちを理解しようとするようなことを投げかければ良いと思います。それと市の図書館でタイアップしていくと国際理解が一層深まっていくと思います。

○委員

そこで、資料を展示しようとする、学校図書館にその資料があるかということになっていくので、図書館である程度、新しい資料をそろえてもらったらいいのではないかと思います。

○議長

財団に関わっておられた委員がおられるので、お聞きするのですが、図書館と他の財団施設との連携のイベントが好評のようですが、それについて御経験上、何かおありですか。

○委員

1つ前の項目に出てきていますが、今村翔吾さんの講演については、地味な図書館がよくやったなという思いです。あれがまさに市民を動かすというか、きっかけみたいなものを教えてくれたと思います。他のアスピラート等がいろいろと展示にしても、人が動くのですよね。シナモロールなども人が動きました。

しかし、今村さんの講演は、全国の先駆けみたいな感じで、すごかったなと思っています。ああいったことが他にもできればと思いますが、ただ、図書館は今、大変うまく機能していると思います。私は、文化振興財団を離れましたが、図書館については、評価していいのではないかと思います。

○議長

はい。それでは、大項目5をお願いします。

○館長

**5 様々な教育文化施設とのネットワークを進め、サービスする図書館**

9 ページ目、5-(2)の①ですが、昨年引き続き、8月17日と1月18日に開催された山頭火ふるさと館の「山頭火を学ぶ会」に、講師として職員を派遣しました。

また、山口県央連携都市圏域図書館利活用推進事業として行う、「図書館で学ぶナナシマチの歴史」と題した連携企画では、10月8日から始まった7市町の図書館をめぐるスタンプラリーの他、防府図書館の単独企画として、11月18日に山頭火ふるさと館の学芸員、高張優子氏を講師に迎え、「種田山頭火の句を味わおう」と題した講演会を開催しました。

同じく9ページ目、5-(2)の②については、煩雑になるため詳細を記載しておりませんが、アスピラートの「中村佑介展」との連携企画として関連ミニ資料展示「ブックデザインの世界」、「はしもとみお木彫展 カタチ生まれるところ」との連携企画として「アトリエのほんだな」を行いました。

また、ソラールの「読書感想文に関する展示」との連携企画として、関連ミニ資料展示「読書感想文のヒント～いつもと違う観点から、感想文を書いてみよう～」を行い、図書館オリジナルの「読書感想文ワークシート」を配布しました。この企画は大変好評であったため、今年度も展示とワークシートの配布を行っております。

#### ○事務局

p.10 図書館協議会の意見(案)でございます。

大項目5については、学校図書館への支援業務や地域文庫のシステム及び財団内連携のイベント開催などに対して、おおむね評価をいただいております。

この項目では、中学生の本離れに対して意見があり、中高生に対する支援を望まれています。

大項目5についての皆様の御意見を伺いたいと思います。

#### ○議長

今の御説明に対する御意見、御質問をお願いします。

高校生との連携は、筋道ができそうですが、中学生との連携はなかなか進まないという御意見があるようですが。

調べる学習コンクールについても、かなりハードルが高いという御意見が出ていますね。いかがですか。

#### ○委員

中学生の本離れが進む実情があるという御意見をいただいております、大変耳が痛いところです。全体の様子はわかりかねるのですが、本校の様子をお話しますと、本離れが進んでいるという感じはありません。学校としても、しっかり読書活動をやっていきたいと思いますということで、今、朝学をずっとやっているのですが、週に1日は、読書活動として朝読書を残して、学校運営をしております。また、国語科の授業の中でも、少しでも本に興味を持ってもらいたいということで、選書会を開いたりとか、授業の中でビブリオバトルを企画して、表現力を育成するという意味も込めて、いろいろな本を紹介するというような活動をしたりとか、少しでも子どもたちが本に親しんでもらう活動をしているところでございます。

#### ○議長

中学校でもいろいろと工夫をされているということですね。

それと、地域文庫や貸出文庫についての御質問があるようですね。これは、

以前も説明を受けた事があるかとは思いますが、お願いできますか。

○館長

私の方から、御説明をいたします。

ご存じの方もいらっしゃるかと思いますが、地域文庫は、公民館に200冊の本を貸出して、3か月に一度入れ替えております。地域の皆様にそれを御利用いただくというサービスで、貸出・返却業務等の直接の運営は公民館がしているのですけれども、公民館に図書館から本を定期的に貸出するものです。

それに対しまして、貸出文庫は基本的には学校に本を貸出するもので、1学年が40冊、6学年で240冊という形になります。こちらも、定期的に交換を行っています。すべての小学校が利用しているわけではなく、現在、市内の小学校11校が利用をされています。その他にも団体登録をされている団体、留守家庭学級や幼稚園などには、定期、不定期に関わらず団体として貸出をしております。

○議長

よろしいでしょうか。

では、大項目6に移りたいと思います。お願いします。

○館長

#### 6 子どもたちの読書活動を進めていく図書館

続いて10ページ目、6-(1)の①については、第10回目となる「防府市図書館を使った調べる学習コンクール」への出品予定者のうち、希望者18人を対象に、「チャレンジ！調べる学習」と銘打って、テーマの決め方、調べ方、まとめ方について助言する講座を開講しました。そのかいあつてか、出品数は、小学生が27点、中学生が9点で、小学生・中学生ともに昨年より若干増えております。なお、昨年度より新設された「上山満之進賞」については、最も郷土愛にあふれている作品ということで、「いざ！阿弥陀寺へ」という、小学校5年生の作品が選ばれました。ちなみに、上山翁没後85年ということで、受賞者による感想発表と作品についての講評が、来る7月30日の報恩墓参において行われる予定です。

○事務局

図書館協議会の意見（案）は、p.11でございます。

大項目6は、子どもの読書活動についての項目ですが、「おはなし会」や「読書感想文教室」、大項目4でもいただいた意見「上山満之進賞」の創設についてなど、評価をいただいております。

また、図書館がボランティア活動を更なる支援強化を行うことについて期待されています。それ以外にも、意見や要望等を掲載しております。

大項目6について、皆様の御意見を伺いたいと思います。

○議長

では、今の御説明に対する質問、御意見をお願いします。

図書館関連の児童・生徒のコンクールへの応募について、今話題の生成 AI、チャット GPT を使う子どもがいるかもしれませんね。調べる学習コンクールは図書館振興財団が主催で、読書感想文コンクールは全国学校図書館協議会が主催で、文科省のガイドラインに沿った何らかの指針が出るのではないかと思います。市として、教育委員会として何か対応は考えておられるでしょうか。

○教育長

今は、文科省のガイドラインに沿ってということで考えておりますが、原則は使わないということで、コソコソやっぺいこうと言っております。ただそこから先は、子どもたちのことになるので、今後は、分からないところです。ただ、子どもたちの文書作成する能力が一気に劣ってくるのではないかということで、大変危惧しているところでございます。どんどん使いましょうという声は出ていません。

○議長

小学生でも使う子どもがいる可能性がありますよね。

○委員

そのようなことはないと思いますし、夏休みにあたってプリントを配布するようになっております。

家庭でのことはわかりませんが、学校での様子を見ておりますと、利用する可能性が低いのではないかと思います。

○議長

中高生とはちょっと違うかもしれませんね。

ただ、去年の調べる学習コンクールの作品を見ても、パソコンでプリントするものですから、どこからが引用で、どこからどこまでが自分の意見かというのが、なかなかわかりづらいところがあるので、そうした中、生成 AI、チャット GPT を活用されると、判断出来ないのではないかと危惧するものですから。

そのうちにガイドラインもできて、それに沿って何らかの進展があろうかと思いますが、心配は心配ですね。

この6について、委員意見の最後の所で、森のくまさんのことが書かれていますが、これについてはいかがですか。

○委員

防府図書館にはボランティアがたくさんあるのに、表に出ていないのが残念だと思うのですが。私の所属しているボランティア団体だけでなく、布絵本「結う」さんも、先日7月に活動をされていたので、ボランティア活動をホームページにのせていただいたり、行事で何があったなどと残したりしてほしい

など思いました。

たまたま山陽小野田(市立図書館)の山本(館長)さんが県の子ども読書関連総合年表を作成されて、そこにそれぞれの個人や団体のボランティア活動について、いつ、誰が、どんなことをしてといったものが全部一覧表になっているのを見た時に、他のボランティアさんの活動も載せていただけると、子どもが参加しやすくなるのかなと思ったからです。

○議長

図書館としては、ボランティア活動の紹介としては、図書館だよりも載せるというようなことは、やっていますか。

○館長

事業実施状況は、基本的に図書館の活動ということになりますので、図書館を使ってボランティアされているサークルの活動を載せるのは、ちょっとどうかと考えて、今までは掲載しておりませんが、そういう活動の紹介ということで、それぞれホームページからは、イベント案内を掲載しておりますので、内容を掲載することについては、今後検討していきたいと思えます。

先ほど、委員からありましたが、昨年的那須さんのイベントの際には、那須さんの本のブックリストを作成していただきまして、無料で配布していただくなど、ボランティアとしての参加もございました。こちらで御紹介できればよかったですのですが、大変失礼いたしました。

○議長

よろしいですか。

それでは、大項目7番目について、お願いします。

○館長

#### 7 障害者や高齢者に優しい図書館

11 ページ目、7-(1)の①については、先にも触れましたように、10月1日に電子図書館をスタートし、インターネットを通じて、文字の拡大や音声読み上げのできる電子書籍を利用できるようにしました。

また、7-(2)の①については、4月1日から、国立国会図書館が制作・収集した音声デージー等の視覚障害者等用のデータや、伊藤忠記念財団から寄贈を受けたデージー図書を提供する「ひなぎくネット」をスタートいたしました。広報活動を行ってまいりましたが、まだまだ利用が少なく、郵送貸出サービスも含めて、利用促進のための広報に努めてまいりたいと思えます。

なお、昔、ボランティア団体「翠の会」に作成していただいた録音資料で、伊集院静さんや高樹のぶ子さんなど、市に縁のある作家の方たちの作品について、許諾を得てカセットテープに録音した資料がございますが、ここ最近、カセットテープを利用できる環境が無くなってきており、なおかつ資料そのも

のが経年劣化してきていることから、改めて許諾を得まして、現在、磁気テープをデジタル化して電子図書館に組み入れていく作業を、今年度、始めました。

今年度の事業計画には入れておりませんでした。この4月から進めておりますので、付け加えさせていただきます。

○事務局

図書館協議会の意見(案)は、p.12でございます。

大項目7では、委員の皆様から、障害者や高齢者へのサービスについて、概ね評価をいただいております。

課題や要望についても、まとめられる内容はまとめさせていただき、新たなサービスの御提案もいただいております。

大項目7について皆様の御意見を伺いたいと思います。

○議長

ただ今の御説明に対する御意見、御質問をお願いします。

この大項目7の委員の意見の中に、本が高い位置までであるので、障害者や高齢者が利用しにくいのではないかという意見がありますが、これはどなたでしょうか。6段書架があって、車いすの方は届かないかと思いますが。

○委員

私が出した意見です。大活字本が書架の一番上まであるのですが、大活字本を利用される方は、目が不自由だったり、体が不自由だったりする方がおられるので、低い位置でまとめてほしいなと思いました。

○館長

今、御指摘のとおり、他の書架は160cmという高さが上限になっているのですが、大活字本がたまたま高い書架にあって、1段目や2段目が取りにくいというのは、御指摘のとおりでございます。配列等の見直しも含めて検討してまいりたいと思います。

○議長

利用者が困っておられる時は、職員がフロアワークをしているので、その方に声をかけてもらったり、対応してもらったりするといいことはいいですね。車いすの方は、介助がないと手が届かないと思いますから。

それと、図書館の位置や場所が分かりにくいと書いてありますが。

○委員

この通り、笑顔満開通りという看板はすぐ設置されたのに、私たちが利用できる図書館とか支援センターとかの施設の表示がその下にできないのかと残念に思いました。

○議長

一応、図書館が3階にあることについては、ルルサス文化センターに生涯学



習の各講座が移る際に、南側に看板ができることはできたのですが、確かに若干小さめではありますね。

それから、大項目7の御意見の中に、視覚障害者向けに新刊紹介等をCDで入れるボランティア活動については、どういうことでしょうか。

○委員

私が翠の会に所属しておりますので、新刊紹介については、時々音訳させていただいておりますし、定期的に市広報をCDに音訳したものを図書館の窓口に届けておまして、貸出は自由です。

いくらでも要望したいことがあるのですが、視覚障害者の方が図書館まで上がって来られるということ自体がほとんどないので、出来れば図書館を音声で紹介するシステムを入れていただければ、利用者が少しは増えるのではないかと思います。前から少し思っていたところですが、いかがでしょうか。

○議長

図書館としては、検討ということになりますかね。

高齢者向けの新規事業をいろいろとされているので、難しいかもしれませんが、委員が前から高齢者のことを言われていますが、いかがですか。

○委員

全体的にみて、前から言っているように、県立図書館ではアクティブシニアを前面に出してやっています。呼び名は、アクティブシニアとかプレミアムシニアとか言っているようですけれども、高齢者の中には元気な方がいらっしゃる方が念頭にあるので、計画の中の大項目7で高齢者と障害者が一緒に入っているのが、ずっと気になっています。確かに支援をしなくてはいけない高齢者もおられますが、元気に齢を重ねた方もおられます。先ほどの多文化サービスの所で、外国の方へもなかなかサービスができないというのと同じで、障害を持っておられる方も障害の程度がさまざまで、マンツーマンになったりすることが必要であることがあるため、図書館でボランティアの支援に委ねているところがあります。

そういうことで、高齢だからすぐに電子図書館ということだったり、障害を持っていて図書館に行けないから、電子図書館ということだったりということではなく、文字や活字音声読み上げなどの種類があることについての働きかけをかなりしないと、生成AIではないですが、電子書籍へのハードルが高くなってしまうことにならないかと、私も考えているところです。

それから、先ほど、生成AIについての話が出ましたが、私は「現在」のことを考えてはいけません。今はこうだから使わないということではなく、これから先はわからないと思っています。5年10年先のことではなく、1年2年先は、ダメだと言っても使うと思うのです。それを前提に、県や岩国も

導入していくという話になっています。防府市はどうされるかわからないけれども、これは否定できないと思うので、共存するためにはどうすればいいかという方向性でいかないと、図書館も社会教育施設ですので、コンクールだけの話ではなく全体を考えなければ、乗り遅れていってしまうと思います。

私は決して推進しているわけではないのですが、世の中がそうになっています。県自体もDX化と言っており、私もついていけないところがあるのですが、障害を持っている方と高齢者の方にDX化といわれても、なかなか難しいところがあると思いますけれども、ボランティアの力をお借りしながら先に進めていくのかなと思っております。生成AIについては、いつも念頭に置いて考えていただきたいなと思っております。1年後、2年後には来ると思います。電子図書館も一緒だと思うのですが、紙を駆逐するというのではなくて、共存というか共生というか、両方一緒に使えることにメリットがあるのだと考えていただくといいと思いました。

#### ○議長

貴重な御意見、ありがとうございます。

私も超高齢者になっておりますので、デジタルは苦手でアナログの方ですけれども、高齢者が障害者の項目に入っているというのは、要するに図書館利用に障害がある方、利用しにくい方であるということが入っているという面もあります。

いずれにしても、今、委員が言われたように、生成AIについては、5年10年どころか、2、3年後にどうなるかわからないところがありますけれども、なかなか追いついていかないところがあるわけです。デジタルとアナログ、紙媒体と電子媒体の両方を活用できるようになっていかなければならないというところでしょう。

それでは、全体を通して何か御意見・御質問等ありましたら、お願いします。

#### ○委員

今日の議題にも上がってございましたが、ボランティアが高齢化して、以前からどうにかならないかという話を、みなさんでさんざんしてまいりました。

今回、図書館まつりの案内をいただいた時に、高校生がボランティアに来てくれるということでした。母親クラブの中では、これは決して私たちができないような重たいものを持ってもらうものではなくて、とにかく高校生が来て、何か一つでも持って帰ってほしいという話をしておきまして、高校生のボランティアをお願いしました。母親クラブは、いつも会員が子どもたちと接して、缶バッチを作っているのですが、今回は高校生の男女問わず来ていただいて、子どもたちと触れ合って、子どもたちに図書館の楽しさとか、缶バッチを作る楽しさを一緒に味わってほしいということで、ボランティアの手伝いをお

願いました。大変うれしい企画だったので、今後ずっと高校生にお手伝い、また中学生にお手伝いをいただけたらなと思っております。大変うれしい提案でした。ありがとうございます。

もう一つ、この間、怪我をしまして、自由に動けない状態でしたので、電子図書を使ってみました。読もうとしても字が見えないので、音声読み上げ機能を使いましたが、あれはAIでしょうか。読み方が違うのですよ。電子書籍で、「額（ひたい）が…」となっていたところを、音声では「がくが…」と読んでいました。私は、AIそのものを聞いたことがないですし、NHKのニュースで読んでいるのがAIですというのしか知らなかったもので、今回のように電子書籍がAIということであれば、少し危険だなと思ったところです。

○議長

AIも固有名詞とか数学なんかは、苦手という話ですね。

○先生

高校生が図書館まつりに参加するのは、素晴らしいという感想ですが、ボランティアとして参加する若い方は、荷物を持つ係という訳ではないということが分かったのですが、私が関わっている他市の図書館で行っているように、自分たちで企画をして、子どもと接したり、ゲーム感覚で図書館の使い方を教えたりというのは、ないのでしょうか。

○館長

実は、各学校に御挨拶に行ったときに、バザー等のお手伝いでなくても、自分たちで企画していただいてもという話を顧問の先生としたのですが、今年が初年度ということで、まず今年度は、図書館まつりがどういうものか、いろいろな企画に参加する中で見せてほしいということになりました。ですので、今年度は、子どもたちによる自発的な企画はございませんが、将来的には、委員もそれを期待しておられることもありますので、子どもたちが進んで祭りに参加して、やがて将来のボランティアに結び付くような形になればいいと思っております。

○議長

山口市立図書館の場合は、県立大学の学生が企画して、図書館まつりの際に何かされているようですが、私は光の図書館協議会もしているのですが、光では図書館まつりの際に、動物のぬいぐるみを着て案内をしております。高校生のボランティアが学校帰りに図書館の返本を手伝っているようですが、返本の配架については、別の御意見もあろうかと思えますけれども、高校生を活用しておられるところもありますので、参考にさせていただくといいかもしれません。

それでは、最後に「その他」について、事務局からお願いします。

○事務局

今回の第1回の会議をふまえて、はじめにも申しましたが、事業の実施状況の評価をホームページで公開したいと思っておりますので、この後でも、お気づきの点がありましたら、お知らせいただけたらと思います。

それから、今回の会議では、図書館の令和4年度の評価を御協議いただきましたが、次回の会議は、来年2月頃ごろ、令和6年度の事業計画について図書館長が説明をいたします。

今回の評価をふまえて、今年度の行事に反映できる部分は反映して、今年度ですぐに対応できないところにつきましては、次年度以降の事業計画の作成の際に参考にさせていただき予定しておりますので、よろしく申し上げます。

○議長

長時間にわたり御協議をいただきまして、ありがとうございました。

本日は、令和5年度第1回目の会議ということで、令和4年度の図書館事業の実施状況について説明を受け、評価について協議を行いました。

防府図書館が生涯学習の中核施設、街の情報拠点として、今後ますます市民にとって魅力ある施設となることを期待しております。

これをもちまして、本日の議題等につきましては、すべて終了しました。皆様、お疲れ様でした。